

**PAT-NO:** JP355142689A  
**DOCUMENT-IDENTIFIER:** JP 55142689 A  
**TITLE:** STAMP CONTAINER HAVING LOCKING DEVICE  
**PUBN-DATE:** November 7, 1980

**INVENTOR-INFORMATION:**

**NAME** **COUNTRY**  
OKIGAMI, TERU

**ASSIGNEE-INFORMATION:**

**NAME** **COUNTRY**  
OKIGAMI TERU N/A

**APPL-NO:** JP54049768

**APPL-DATE:** April 24, 1979

**INT-CL (IPC):** B41K001/36 , B65D055/14

**US-CL-CURRENT:** 101/327, 101/333, 101/368

**ABSTRACT:**

**PURPOSE:** To prevent a stamp from fraudulent use by a method wherein a key plug of locking device is turned to allow the lock ring to expand and shrink within the band shape groove and U groove by means of an antifriction ball.

**CONSTITUTION:** On inserting a key into the key plug 1 provided for the cap body top and turning to the right direction about 90 degrees, a lock ring 14 is pressed toward the side of the antifirction ball retaining disc 4 by means of the antifriction ball 12, the external side thereof making contact with the bottom of the container U groove 16, wherein 1/2 thickness of the lock ring 14 is embedded into both sides of the cap body groove 13 and the container U groove 16, unabling the cap body 2 to remove from the container body 15. Then, when the key is inserted into the key plug 1 and turn the key plug, allowing the antifriction ball 12 to press down to the circular center direction by the elastic force of the lock ring 14 for compressing to the recess 10 of the ball retaining disc 4, the external side of the lock ring 14 is getting away from U groove 16 to allow to unlock for removing the cap body 2.

**COPYRIGHT:** (C)1980, JPO&Japio

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑯ 特許出願公開  
⑯ 公開特許公報 (A) 昭55-142689

⑮ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 41 K 1/36  
B 65 D 55/14

識別記号 庁内整理番号  
6453-2C  
6452-3E

⑯ 公開 昭和55年(1980)11月7日  
発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑯ 施錠装置を備えた印鑑容器

⑯ 特願 昭54-49768  
⑯ 出願 昭54(1979)4月24日  
⑯ 発明者 沖上照

千葉県山武郡大網白里町仏島5  
番地2  
⑯ 出願人 沖上照  
千葉県山武郡大網白里町仏島5  
番地2

明細書

1 発明の名称

施錠装置を備えた印鑑容器

2 特許請求の範囲

キーブラグ1を回動する事により、キーブラグ突出端3に固着されたボール受盤4を回動させ、キャップ本体外周面及び容器開口部内周面とに設けた帯状の凹溝13及びU溝16中をロックリング14が或磨ボール12を介して膨縮し、容器本体15がキャップ本体2から着脱可能又は、着脱不可能となる施錠装置を備えた印鑑容器。

3 発明の詳細な説明

この発明は、実印、職印などの重要な印鑑の盗用防止を目的とするものである。

従来から印鑑の効用は、誠に大きなものであり、個人の印鑑証明書は、市区町村長において発行するが、現在では印鑑登録証明制度の採用

により、登録カードを持参すれば、本人でなくとも委任状なしに印鑑証明書の発行が可能であり、実印の盗用が容易に出来るとなれば、本人の意に反する行為が、本人の知らない間に行なわれる可能性が高くなり、実印の保管にあたっては、ますます気を使わねばならなくなつた。また、会社、官庁等においても、印鑑の効用は誠に大きく重要な働きをしている。

従来から印鑑の保管については、会社、官庁等においては、書庫、金庫等に他の印鑑や書類と共に保管しているのが普通であるが、個々の印鑑に施錠出来ないので盗用される危険性があり管理者は、保管、取扱等に大変神経を使うものである。また、家庭においては、書庫、金庫等高価であるため、大部分の家庭においては簡単前のついた、たんす、机等の引出しに保管されている場合が多い。

なお、施錠可能な収納設備内に保管されていたとしてもさらに個々の印鑑を当発明の容器に入れ施錠しておけばより安全である。

(1)

(2)

いいかえれば、各々の印鑑に施錠すれば犯罪の未然防止にも役立つ事になる。

つぎに、この発明の構成を図面にしたがって説明すると、1はキャップ本体2内に回動自在に嵌合したキーブラグで、その先端にはキーブラグ突出端3を介して減磨ボール受盤4をボルト5及びワッシャー6で固締している。

キーブラグ1は、キャップ本体頂部7と、その本体首部のワッシャー8、スナップリング9等で回動自在に嵌合し、キーブラグ1から減磨ボール受盤4に至る回動中心線は、キャップ本体の円筒中心線と同一中心線上に設ける。減磨ボール受盤4の形状は、図に示すように、中心部は多角形に穿ち、キャップ突出端3との固締を容易になし、直徑はキャップ本体2の内徑よりも小さくし、円周には数箇所(本実施例においては3ヶ所)一定方向にクサビ形の欠虫10、11を設け、その欠虫の谷10の部分と、キャップ本体内面とが相対する数箇所(本実施例においては3ヶ所)に、キャップ本体外周面から、円

(3)

筒中心線に垂直かつ、放射状に穴設し、減磨ボール12を嵌入する。その複数の穴を結ぶキャップ本体外周線上には帯状の凹溝13を、その凹溝には、ロックリング14を嵌入する。

容器本体15のロックリング14との内表面は、キャップ本体外周面に設けた帯状の凹溝13と同じく帯状のU溝16を設ける。

ロックリング14が、キャップ本体凹溝13内に於て回遊を防止するため凹溝の一部分は、埋溝17としてある。

減磨ボール受盤4の外周側面は、減磨ボールが逃げないように、中へわん曲とする。

ロックリング14の外周面の角を取り、容器のU溝16への嵌入を滑らかにした。

次に本発明の作動を図における実施例にもとづき、説明すると、キャップ本体頂部に設けたキーブラグ1に鍵を差込み右へ約90度回転すると、第3図の状態から第4図を経て第5図の状態へと変化する。即ちロックリング14は自己の持つ弾性によって、キャップ本体の凹溝13に嵌

(4)

入され、薄底に密着していたのであるが、減磨ボール12を介して、減磨ボール受盤4の側面に押圧され、ロックリング14が徐々に広がり、容器内面のU溝16内に、ロックリング14外側面が嵌入し第5図の如く減磨ボール12が減磨ボール受盤4の中心点から最も離れた状態にある時、ロックリング14の外側面は容器U溝16の底面に接着し、かつ、ロックリング14の厚みの $\frac{1}{2}$ ずつが、それぞれ、キャップ本体凹溝13及び容器U溝16の双方に嵌入している状態となり、この時には、~~容器15は、キャップ本体2から離脱不可~~は、~~容器本体15~~。

解錠のためには、キーブラグ1にキーを押入し、キーブラグを回動させる事により減磨ボール受盤4は図面第5図から第4図を経て第3図の状態へと変化する。即ち、減磨ボール12はロックリング14の弾力により円中心方向へ押圧され、ボール受盤4の欠虫部の谷面10に圧縮された時には、ロックリング14の外側面は容器U溝16から脱出しており、この時、キャップ本体2

は、容器本体15から取りはず事が出来、容器本体15中に入っている印鑑を取り出し、自由に使用することができる。

#### 4 図面の簡単な説明

第1図は、この発明にかかる斜視図である。

第2図は、この発明にかかる底盤の状態にある従断面図である。

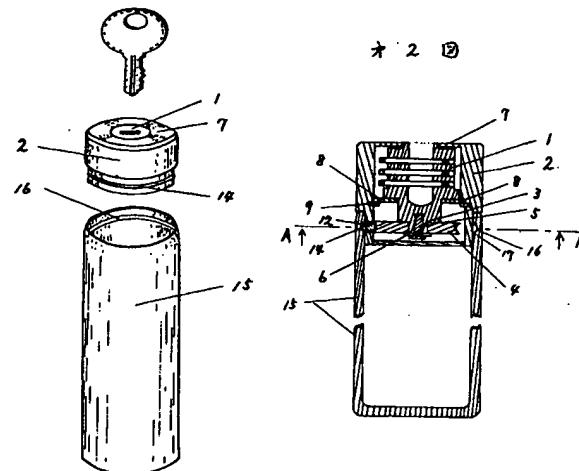
第3図、第4図、第5図は共に第2図のA-A線で切削した平面図であり、その内第3図は解錠の状態の平面図であり、第5図は施錠時の平面図、第4図は、解錠、施錠の中間の状態における平面図である。

特許出願人 神上 照

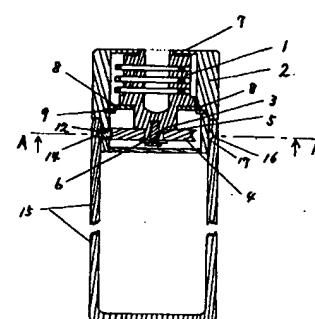
(5)

(6)

方 1 図



方 2 図



方 3 図

方 4 図

